

ムーブフェスタ 2023 イベントステージ第 1 部 「世界の行政官とおしゃべりしよう ～ジェンダーカフェによるこそ～」

- ◇ 日時 2023年7月15日(土) 13:00~15:30
- ◇ 場所 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 1階 交流広場
- ◇ プログラム
 - ・各国の行政官による発表
 - ・グループディスカッション(20分間×3ラウンド)
 - テーマ ①「ジェンダーに関わることで、これまでに差別をうけたり、困った経験をしたことはありますか？」
 - ② [参加者の皆様への質問]
「自分の国でジェンダー問題と感ずることは何ですか？」
[行政官への質問]
「自分の国でジェンダー問題に取り組んでいることを共有してください」
 - ③「ジェンダー平等な未来の実現に向けて、あなたができるアクションは、何ですか？」
 - ・まとめ、記念写真
- ◇ 参加者：77名
- ◇ 出演者
 - JICA「行政官のためのジェンダー主流化政策2023」研修員9名
 - Ms. Mariyam Raya Ahmed ラヤさん(モルディブ)
 - Ms. RAI Pushpa Devi プシパさん(ネパール)
 - Ms. KITHINJI Jane Keeru ジェーンさん(ケニア)
 - Ms. RODRIGUEZ GUTIERREZ Yaiza Ariana ジャイサさん(メキシコ)
 - Ms. TRAORE Haoua ハウアさん(マリ)
 - Ms. SINGH Poonam Pritika プーナムさん(フィジー)
 - Ms. HEINE-JEKKAR Dora Nancy ドーラさん(マーシャル諸島)
 - Ms. SAGATA Olivier オリーブさん(パプアニューギニア)
 - Ms. PERVEEN Najima ナジマさん(パキスタン)

【実施内容】

今年のムーブフェスタ 2023 のイベントステージは、KFAW 創設 30 周年を記念して、国際色あふれる 2 部制のイベントを実施しました。

第 1 部「世界の行政官とおしゃべりしよう～ジェンダーカフェによろこそ～」では、JICA「行政官のためのジェンダー主流化政策」研修で来日中の世界各国の行政官たちと、公募で参加した市民との交流会を行いました。市民と行政官たちは、ディスカッションを通じて、ジェンダーに関する互いの意見を交わしました。さらに、それぞれの国の文化についても関心と理解が深まる貴重な機会となりました。

イベントのはじめに、各国の行政官のみなさんに、自分たちの国の紹介とジェンダーの課題について説明していただきました。

◆ラヤさん（モルディブ）

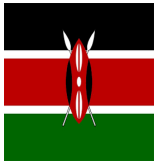
モルディブは、インド洋に浮かぶ小さな島国で、約 1,200 の島々から成ります。ハネムーンなどの旅先としても有名なリゾート地で、マグロなどのシーフードを使ったモルディブ料理や、ウォータースポーツなどが楽しめます。モルディブのジェンダーに関する問題は、女性にも男性にも、いまだにジェンダー平等に対する否定的な固定観念があること、管理職に占める女性の割合が少ないこと、ジェンダーに基づく暴力などが挙げられます。



◆プシパさん（ネパール）

ネパールは、中国とインドの中間に位置する内陸国で、地球で最も高い山エベレストが有名な国として知られています。ネパールには、チトワン国立公園、サガルマータ国立公園、カトマンズバレー、ルンビニ（仏陀誕生の地）の 4 つの世界遺産がユネスコに登録されています。ネパールのジェンダーに関する問題として挙げられたのは、家庭内暴力に関する問題、有害な慣行（児童婚、持参金の習慣、魔術、チャウパディ（月経期間の差別））などでした。





◆ジェーンさん（ケニア）

ケニアは、インド洋に面したアフリカの国です。一年中過ごしやすい気候で、紅茶やコーヒー、切り花などが主な輸出品として有名です。また 40 以上の国立公園と野生動物保護区があり、8 月の 200 万頭以上の野生動物たちの大移動は、世界的にも有名です。ケニアのジェンダーに関する問題は、指導的地位に占める女性の割合が低いこと、早期婚、主に女性が担う家事や介護などの無償労働などが挙げられます。



◆ジャイサさん（メキシコ）



メキシコはラテンアメリカで 3 番目に大きな国で、世界で 10 番目に人口の多い国です。母国語はスペイン語ですが、68 の原住民族の言葉も話されています。メキシコのジェンダーに関する主な課題として挙げられたのは、女性の経済的自立、性と生殖に関する健康、あらゆる場面での女性の参画と平和についてでした。



◆ハウアさん（マリ）



マリは西アフリカに位置する内陸国です。マリでは、シアバター原材料であるシアがよく採れます。泥で作られた巨大なモスクは、世界遺産に登録されています。マリで深刻になっているジェンダー関連のニュースとして、テロの影響による問題（人々の移住、子どもたちの就学に関する問題、表現の自由）や、女性器切除の問題などが挙げられました。



◆プーナムさん（フィジー）



フィジーは約 330 の島々から成る国です。フィジーの国民性は世界で最もフレンドリーで社会的であることで有名です。またフィジーはラグビーの強い国としても有名です。フィジーのジェンダー問題は、ジェンダーに基づく暴力、国の意思決定の場面において男性が支配的であること、スポーツ界における女性の活躍の場をめぐる問題や課題などが挙げられます。



◆ドーラさん（マーシャル諸島）



マーシャル諸島の旗の色は、青は太平洋、オレンジは勇気と富、白は明るさを表しています。地元の食べ物として有名なのは、魚やココナッツ、ブレッドフルーツ、バナナなどです。ジェンダーに関する課題として挙げられたのは、気候変動による問題で、障害を持つ人々を含む多くの女性や女兒の生活に影響を与えているとされます。



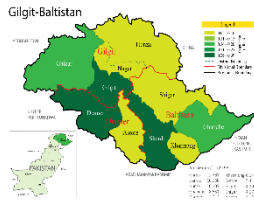
◆オリブさん（パプアニューギニア）



パプアニューギニアは、800 を超える言語と、地域ごとの多様な慣習があり、世界で最も文化的に多様な国のひとつとされています。国土の 80% は森林におおわれており、熱帯林の面積は世界第 3 位です。ジェンダーに関連する問題として挙げられたのは、高い汚職率や、女性の 3 分の 2 がジェンダーに基づく暴力を経験していることなどでした。



◆ナジマさん（パキスタン）



パキスタンは、中国、インド、タジキスタンと国境を接している国です。パキスタンには7000メートルを超える山々がたくさんあり、観光客は、登山、スキー、パラグライダー、ロッククライミングなどを楽しめます。ジェンダーに関する問題として挙げられたのは、いくつかの地域では、女性に対する考え方が保守的で伝統的であることです。また女性は財産を相続することができないことが多く、財産権を持つ女性は3%に満たない現状も問題です。これらは差別的な政策や慣習が主な原因と考えられます。



行政官のみなさんの発表の後、9グループに分かれてグループディスカッションを行いました。

《 グループディスカッションでの意見の一部を紹介します 》

テーマ①「ジェンダーに関わることで、これまでに差別をうけたり、困った経験をしたことはありますか？」

〈参加者の皆様の意見〉

- ・昔カナダに語学留学に行った時に、自分ともう一人の男性以外は女性ばかりで、旅行・語学留学することが女性のする事になっていて、自分がマイノリティーになってしまった。
- ・自分の年代は、差別があって普通の時代だったが、最近は改善されている印象。女性の方が情熱的に積極的に勉強しようとしていると感じる。社会が受け入れているかは、まだまだわかりませんが。
- ・子供が熱を出すと当たり前のように、女性が休みを取り迎えに行かないと行けない。
- ・日本は固定観念で、女性は家を守らなければならない様な風習がある。女性も経済的・精神的に自立することを日本の学校では教えていない。

〈マリの行政官の意見〉

16歳の時27歳の親が決めた人と結婚させられた。学校に行くことをよく思ってなかった。帰ってきたら、暴言・暴力を振るわれることもあった。なので、学校に行くことが難しかった。

テーマ② [参加者の皆様への質問]：「自分の国でジェンダー問題と感ずることは何ですか？」

[行政官への質問]：「自分の国でジェンダー問題に取り組んでいることを共有してください」

〈参加者の皆様の意見〉

- 指導的立ち場にいる人に男性が多い。結婚した夫婦は平等になってきていると思う。
- 女性の議員の割合が低い（女性 10%程しかいない）のに驚いた。
- 非正規雇用が多い。給料が低い為、奨学金が返せなかったり、お金を持っていない女性が多いのではと思う。

〈メキシコの行政官の意見〉

法律を変えていく必要がある。女性議員の数を増やすなど（半数）、女性の意見を増やす事で改善していく。議員の女性は政府のサポートシステムがあるので、結婚しても仕事を続けることが出来るが、一般の企業はまだまだそこまでいっていない。トランスジェンダーの方に対してもまだ差別があるので、進んでいる一方遅れているという課題がある。女性はクレジットカードを使うのに金額の制限などがある。女性タクシードライバーは女性しか乗せられないなど制限がある。政府は女性が差別にあったことを統計を取ったりもしている。政府は、キャリアアップしたい女性に奨学金など経済的援助もしている。

テーマ③「ジェンダー平等な未来の実現に向けて、あなたができるアクションは、何ですか？」

〈参加者の皆様の意見〉

- 若い頃、会社でお茶を入れるのは女性の仕事だった。自分の見方をまず変えて、これからは子ども達にこれは女性の仕事、男性の仕事と分けなくて子育てをする事が大事だと思う。
- 男子高校に通ったあと、今まで女性と関わる機会がなかった。社会に出て、女性が多い職場なのですが、理解しようとして一緒に行動していくことが大切だと思っている。
- メキシコのジャイサさんが言われたように、まずは女性議員の数を増やす事から始めていくのは大事だと思うので、選挙でなるべく女性に投票している。

〈ケニアの行政官の意見〉

男性が外で働き、女性は介護・専業主婦という場合が多いので、妻が夫に、お金が足りないの欲しいと言うと、暴言を吐かれたり、別の妻を探すからと子どもと一緒に追い出されたりして離婚に至るケースが多い。そういう女性・子供を助けるグループや女性に職を手付ける為の団体も政府が立ち上げている。

今回のイベントにご協力いただいた、ムーブフェスタ 2023 実行委員会の皆さん、通訳サポーターをお引受けいただきました皆さん、そして JICA 研修の行政官の皆さん、ご参加いただきました全ての皆様方にお礼を申し上げます。

